

平成25年度 文化庁日本語教育研究協議会(大阪)
「生活者としての外国人」のための日本語教育ワークショップ
第2分科会

行動・体験中心の活動を考えよう ～「教材例集」を活用するために～

2013年11月2日 梅田センタービル

米勢 治子
(東海日本語ネットワーク)

第2分科会の流れ

0. はじめに
1. カリキュラム案についておさらい
2. 行動・体験中心の活動について
3. 行動・体験中心の活動のデザインについて
考えてみよう
4. 教材例集活用の留意点
5. 質疑応答

はじめに

- 今日のメンバーはどんな人？

今日のメンバー(1)

○地域日本語教育とのかかわりについて

- ・自治体または国際交流協会の職員として働いている
- ・地域日本語教室で活動している
- ・地域日本語教育の研修講師としてかかわっている
- ・その他

今日のメンバー(2)

○活動地域について

- ・近畿1(大阪・京都・兵庫)
- ・近畿2(滋賀・奈良・和歌山・三重)
- ・中国・四国
- ・九州・沖縄
- ・東海・北陸
- ・関東・信越 以北
- ・その他

今日のメンバー(3)

○学習者(生活者としての外国人)について

- ・日本人の配偶者
- ・日系就労者
- ・技能実習生
- ・中国帰国者・難民
- ・ビジネスパーソン・留学生などとその家族
- ・その他

今日のメンバー(4)

○グループ内で自己紹介・・・1人1分

はじめまして

- 名前 です。
- 場所 で、曜日の時～時に、
教室名 という教室で活動しています。
- この地域は・・・
- 教室の学習者は・・・

今日のメンバー(5)

○文化庁の「カリキュラム案」について

- ・活用している
- ・使ったことがある
- ・以前から知っている
- ・今回の協議会で知った
- ・知らない

1. カリキュラム案についておさらい

- カリキュラム案って、どうしてできたの？
- 標準的なカリキュラム案って？

「カリキュラム案」の背景

○平成19年7月

- ・定住外国人の増加を受け、文化審議会国語分科会に日本語教育小委員会を設置。

○平成20年1月

【報告書】「今後検討すべき日本語教育の課題」

⇒地域社会の一員として外国人が社会参加するのに必要な日本語学習の支援で、以下の3点について早急に検討が必要

① 内容の改善 ② 体制の整備 ③ 連携協力の推進

日本語教育の内容・方法の改善における成果物

平成19年7月 定住外国人の増加を受け、文化審議会国語分科会に日本語教育小委員会を設置。

平成21年1月【報告書】「日本語教育の充実に向けた体制整備と「生活者としての外国人」に対する日本語教育の内容等の検討」
①体制整備⇒国・都道府県・市町村の役割分担、②各機関の連携協力の在り方、③コーディネート機関・人材の必要性、④日本語教育の内容の大枠の提示 ※④に基づき、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的な内容・方法について検討。

【検討1】「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的な内容・方法の検討

・「外国人が地域で生活できるようになり、社会参加できる」ようになるために必要な日本語教育の考え方、各地での工夫・応用の仕方を以下の具体物を通して提示。

H22.5.19

①「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について

・「知る」ではなく「できるようになる」ことが期待される生活上の行為を提示。
・各地域が地域の実情に合わせて、独自のプログラムを作るための案。

H23.1.25

②「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について
活用のためのガイドブック

・地域の実情把握からプログラム開発・実践まで、カリキュラム案に準拠し、地域の日本語教育の展開する上で必要な手順を提示。

H24.1.31

③「生活者としての外国人」に対する日本語教育の教材例集

・生活の基盤形成・社会参加につなげる日本語教育の教材を例示。
・各地域で工夫を加え、外国人の地域社会への参加につなげるためのアイデアを指導ノートに記載。

H24.1.31

④「生活者としての外国人」に対する日本語教育における日本語能力評価について

・日本語教育の実践と関連付けた評価の在り方について提案。日本語能力の把握を行う方法と学習履歴・能力を記録するファイルを提示したもの。

H25.2.18

⑤「生活者としての外国人」に対する日本語教育の指導力評価について

・日本語教育プログラムの実践者がPDCAサイクルに基づいて、自らの指導力を評価するチェックシートをはじめとする指導力向上のための日本語指導力ポートフォリオを提示。

各地域において、上記成果物を活用して各地域の実情に応じた日本語教育を展開し、日本語教育を通じて、外国人が地域社会とつながり、外国人の社会参加(エンパワメント)・多文化共生社会につながることを期待。

【検討2】日本語教育に関する課題の検討

・日本語教育小委員会に「課題整理に関するワーキンググループ」を設置し、日本語教育に関する課題の洗い出し、整理を実施。
平成25年2月18日に「日本語教育の推進に向けた基本的な考え方と論点の整理について(報告)」を取りまとめ。

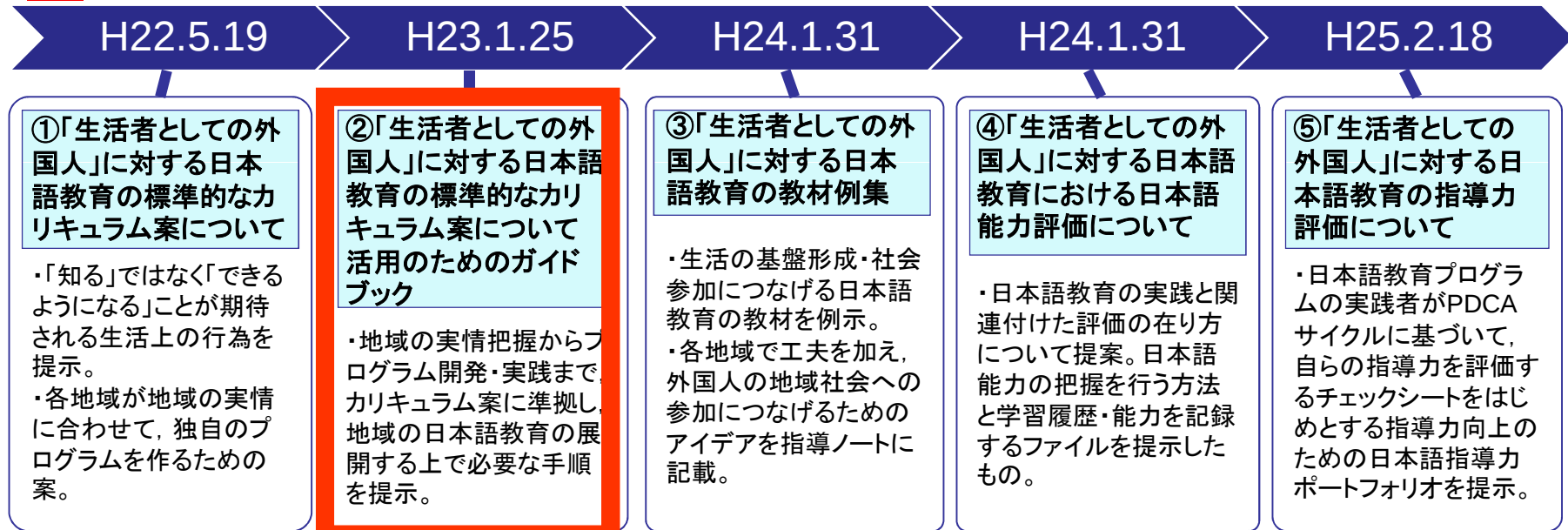
ガイドブックを見ていこう！

平成19年7月 定住外国人の増加を受け、文化審議会国語分科会に日本語教育小委員会を設置。

平成21年1月【報告書】「日本語教育の充実に向けた体制整備と「生活者としての外国人」に対する日本語教育の内容等の検討」
①体制整備⇒国・都道府県・市町村の役割分担、②各機関の連携協力の在り方、③コーディネート機関・人材の必要性、④日本語教育の内容の大枠の提示 ※④に基づき、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的な内容・方法について検討。

【検討1】「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的な内容・方法の検討

・「外国人が地域で生活できるようになり、社会参加できる」ようになるために必要な日本語教育の考え方、各地での工夫・応用の仕方を以下の具体物を通して提示。



各地域において、上記成果物を活用して各地域の実情に応じた日本語教育を展開し、日本語教育を通じて、外国人が地域社会とつながり、外国人の社会参加(エンパワメント)・多文化共生社会につながることを期待。

【検討2】日本語教育に関する課題の検討

・日本語教育小委員会に「課題整理に関するワーキンググループ」を設置し、日本語教育に関する課題の洗い出し、整理を実施。
平成25年2月18日に「日本語教育の推進に向けた基本的な考え方と論点の整理について(報告)」を取りまとめ。

【基本的な考え】「生活者としての外国人」のための日本語教育：**対話による相互理解の促進**とコミュニケーション力の向上を図り、「生活者としての外国人」が日本語を用いて**社会生活に参加できる**ようになることを目指す
→そのための具体的な内容やプログラムを検討・作成する際の基となる

【内容】 **生活上の行為の事例・・・能力記述**、言語要素、社会・文化的な情報など

【利用者】 自治体等の日本語教育担当者、日本語教育コーディネーター的役割者、教室活動を行う人

- 健康・安全に暮らす
 - ・ 健康を保つ
 - ・ 安全を守る
- 住居を確保・維持する
 - ・ 住居を確保する
 - ・ 住環境を整える
- 消費活動を行う
 - ・ 物品購入・サービスを利用する
 - ・ お金を管理する
- 目的地に移動する
 - ・ 公共交通機関を利用する
 - ・ 自力で移動する
- 人とかかわる
 - ・ 他者との関係を円滑にする
- 社会の一員となる
 - ・ 地域・社会のルール・マナーを守る
 - ・ 地域社会に参加する
- 自身を豊かにすることができる
 - ・ 余暇を楽しむ
- 情報を収集・発信する
 - ・ 通信する
 - ・ マスメディアを利用する

「労働」「教育」に関するもの→「カリキュラム案」119ページ:別紙Ⅱ 基礎資料に

2. 行動・体験中心の活動について

- カリキュラム案を使って何をすればいいの？
- 行動・体験中心の活動って？

➤ 言語学習

- ・学習者が「できるようになりたい」と望む生活上の行為を選ぶことで言語学習が進む

➤ 教室活動

- ・生活上の行為と教室活動がつながっていること
⇒体験・行動中心の活動

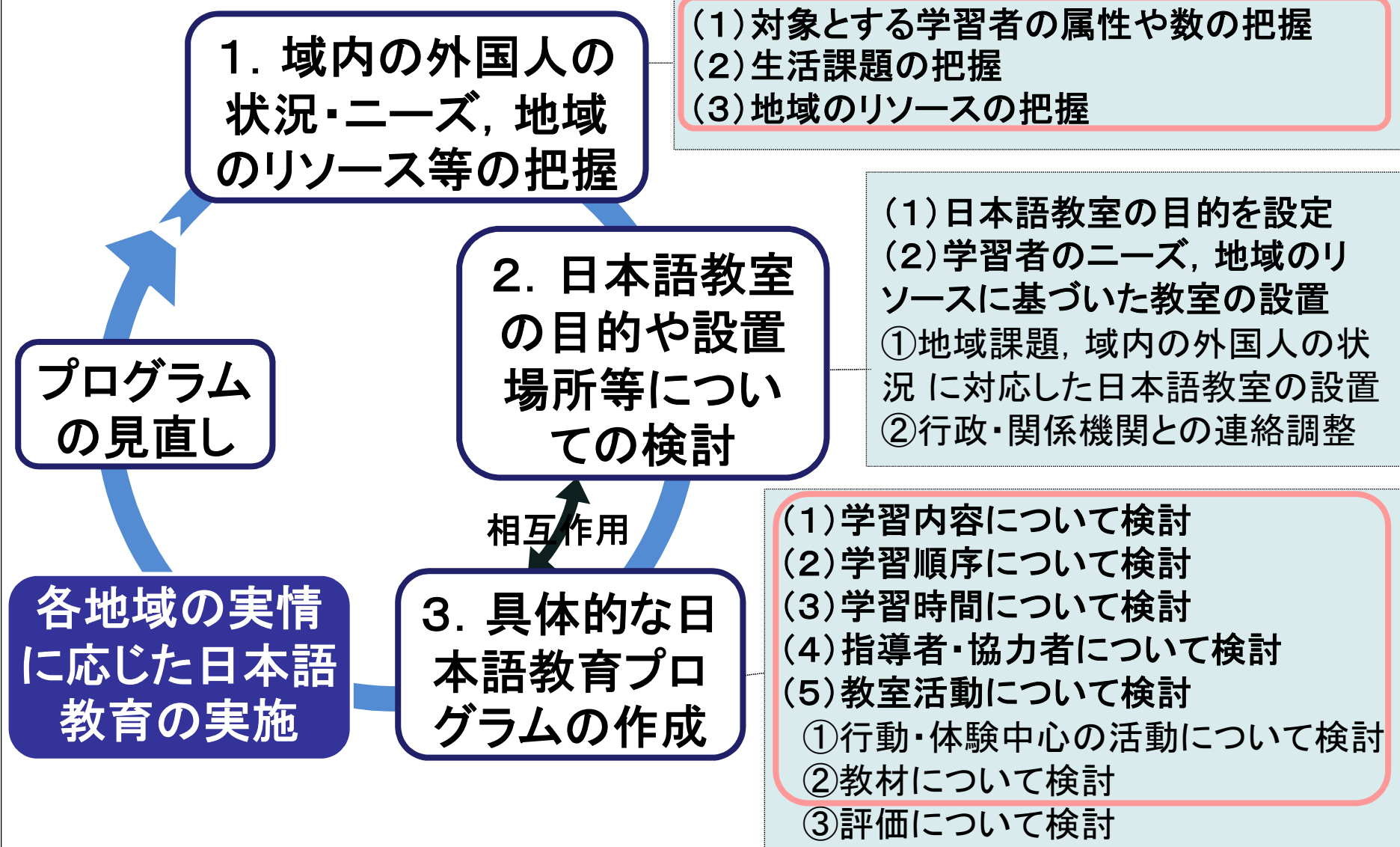
➤ 日本語教室から地域社会へ

- ・学習者の主体性を重視→学び続ける生涯学習へ
- ・地域住民との協働活動を取り入れる→対等な人間関係
⇒ネットワークの構築
⇔自立

カリキュラム案の活用方法

P. 7

【日本語教育プログラム作成手順】



カリキュラム案を教室活動に活用するポイント

- ① 地域・学習者に応じた教育内容の選択と工夫：
- ② 実際に「できるようになる」ために、行動・体験中心の活動を設計
- ③ 専門家・地域住民との協働の活動を取り入れる
- ④ 対話による相互理解が促されるように活動を工夫

3. 行動・体験中心の活動のデザイン について考えてみよう

- 学習内容っていうのは、生活上の行為なんだよね
- で、それができるような、活動のデザインを考えるってことなんだろうけど・・・

行動・体験中心の活動をデザインするとは

対象となる学習者の状況、生活課題、ニーズ、及び
地域のリソースを捉えることから出発



① 地域・学習者に応じた教育内容の選択と工夫

*「生活上の行為の事例」一覧表(5言語)を活用

内容

② 実際に「できるようになる」ために、行動・体験中心の活動を設計

方法

③ 専門家・地域住民との協働の活動を取り入れる

④ 対話による相互理解が促されるように活動を工夫

学習者の状況を知る→学習内容について検討



Mさんの生活状況・
日本語のレベルは？

→Mさんの生活課題
は？ ニーズは？

学習者 Mさん(30代女性)

- ・ネパールから半年前に来日
- ・日本語はかたこと程度だが、学習熱心
- ・仕事は自動車関係の工場
- ・ブラジル人が多い団地に住み、友人は同じ職場に通う英語でコミュニケーションできるフィリピン人女性くらい
- ・半年後に出産予定
- ・同国のご主人はエンジニアで日本語に不自由ない
- ・今の団地で子育てしながら生活基盤を築きたいと考えている

学習内容について検討



Mさんが日本語を使って
できるようになるといい
こと

- ・今すぐ必要なこと
- ・早くできるようになるといいこと
- ・将来できるということ

学習者 Mさん(30代女性)

- ・ネパールから半年前に来日
- ・日本語はかたこと程度だが、学習熱心
- ・仕事は自動車関係の工場
- ・ブラジル人が多い団地に住み、友人は同じ職場に通う英語でコミュニケーションできるフィリピン人女性くらい
- ・半年後に出産予定
- ・同国のご主人はエンジニアで日本語に不自由ない
- ・今の団地で子育てしながら生活基盤を築きたいと考えている

学習内容について検討

みなさんの教室の1人の学習者:Aさんを
思い浮かべてください。

Aさんの生活状況と日本語のレベルは？

生活課題は？ ニーズは？

Aさんにとって

- ・今すぐ必要なこと、
- ・早くできるようになるといいこと、
- ・将来できるといいことはどんなことでしょう。

学習内容について検討するために

MさんやAさんの学習内容を考えるなかで、
難しいと感じたことはどんなことですか？
どんなことを知っておいたほうが良いと思
いましたか？

「生活上の行為の事例」一覧表(5言語)は
活用できそうですか？

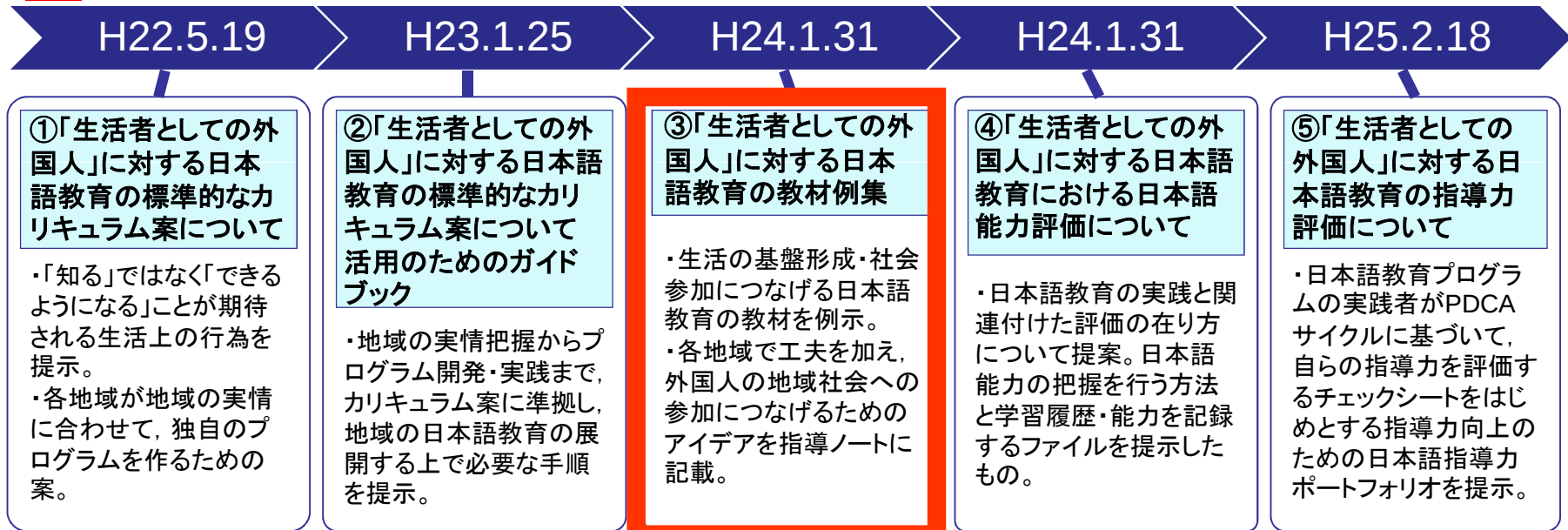
教材例集を見てみよう！！

平成19年7月 定住外国人の増加を受け、文化審議会国語分科会に日本語教育小委員会を設置。

平成21年1月【報告書】「日本語教育の充実に向けた体制整備と「生活者としての外国人」に対する日本語教育の内容等の検討」
①体制整備⇒国・都道府県・市町村の役割分担、②各機関の連携協力の在り方、③コーディネート機関・人材の必要性、④日本語教育の内容の大枠の提示 ※④に基づき、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的な内容・方法について検討。

【検討1】「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的な内容・方法の検討

・「外国人が地域で生活できるようになり、社会参加できる」ようになるために必要な日本語教育の考え方、各地での工夫・応用の仕方を以下の具体物を通して提示。



各地域において、上記成果物を活用して各地域の実情に応じた日本語教育を展開し、日本語教育を通じて、外国人が地域社会とつながり、外国人の社会参加(エンパワメント)・多文化共生社会につながることを期待。

【検討2】日本語教育に関する課題の検討

・日本語教育小委員会に「課題整理に関するワーキンググループ」を設置し、日本語教育に関する課題の洗い出し、整理を実施。
平成25年2月18日に「日本語教育の推進に向けた基本的な考え方と論点の整理について(報告)」を取りまとめ。

(05) 災害に備え、対応する(地震)

取り上げる生活上の行為の事例

(0501030)「避難場所・方法を理解する・人に聞く」

(0502010)「地震について理解する」

(0502020)「身を守る(地震発生時)」

教室活動の目標

・地震の時に行動できるようにする

Mさんにとって
「取り上げる生活上の行為の事例」
「教室活動の目標」は適切でしょうか？
皆さんの教室の学習者Aさん、Bさん...
にとっては、どうですか？

(05) 災害に備え、対応する(地震)

取り上げる生活上の行為の事例

(0501030)「避難場所・方法を理解する・人に聞く」

(0502010)「地震について理解する」

(0502020)「身を守る」

教室活動

・地震の時に

Mさんにとって

「教室活動のねらい」は適切でしょうか？

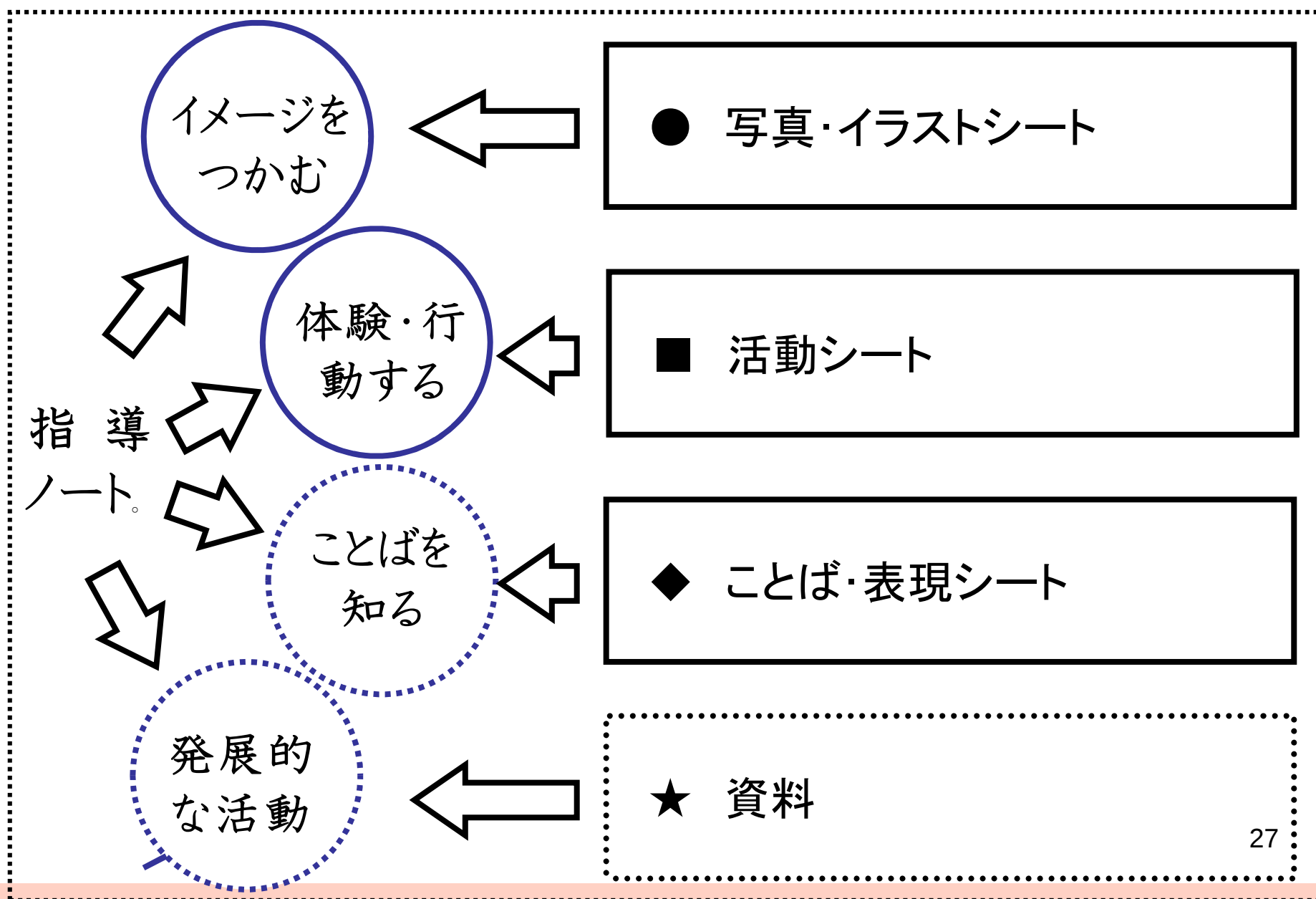
**皆さんの教室の学習者Aさん、Bさん...
にとっては、どうですか？**

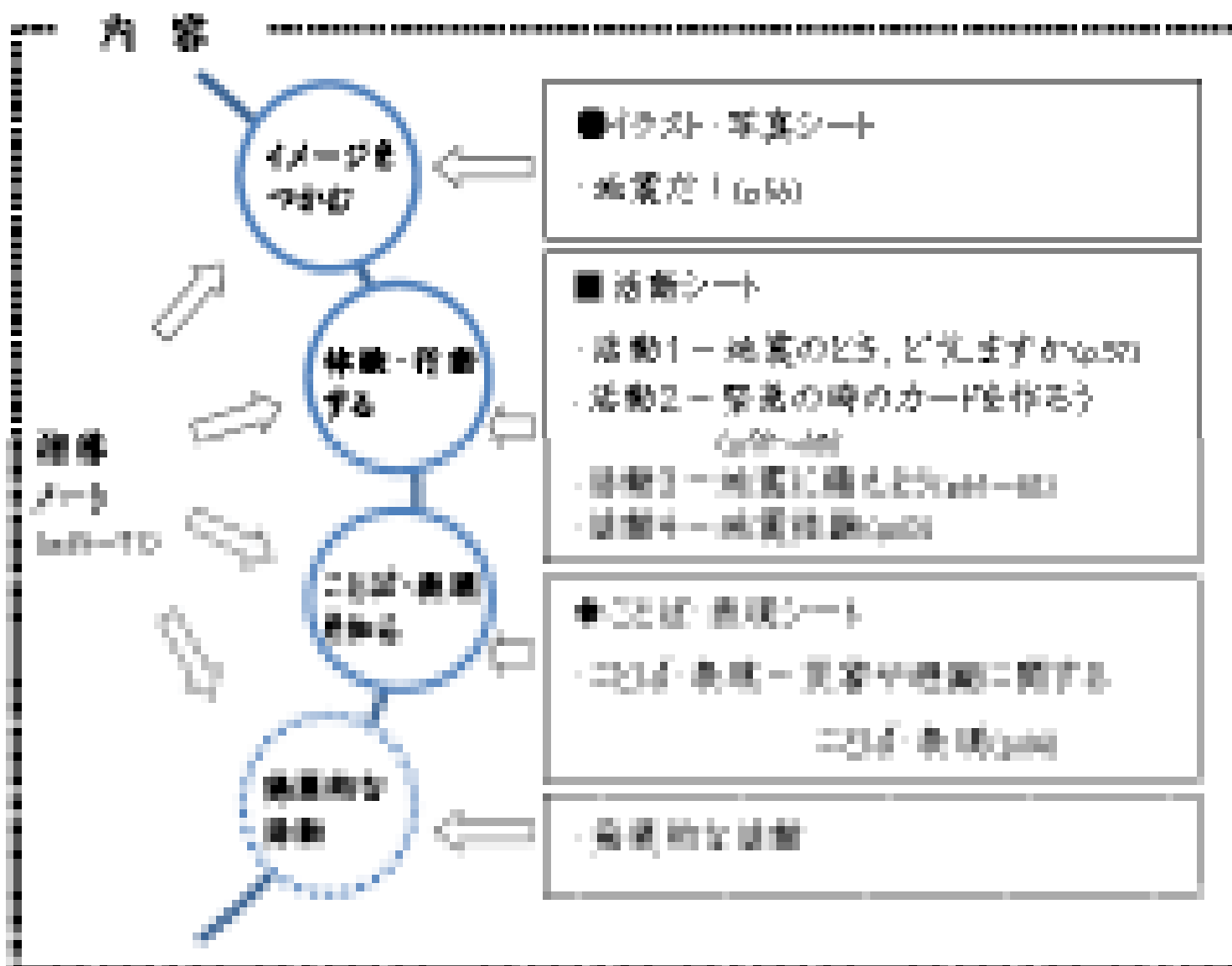
教室活動のねらい

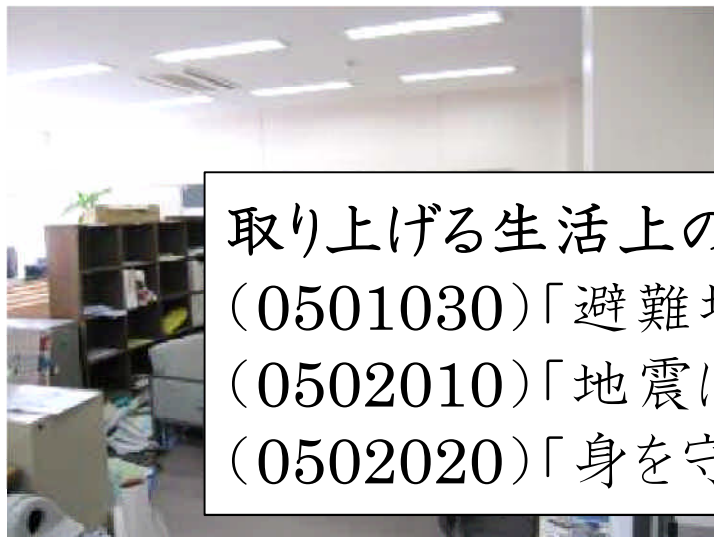
- ・避難場所や避難方法の注意書きを読んで理解できる
- ・身の守り方について説明を読んで理解できる
- ・地震に備えることができる

教材例集の構成

P. 6





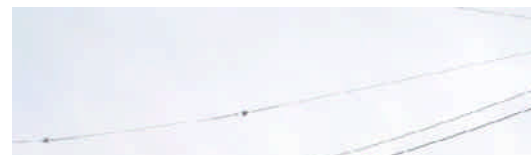


取り上げる生活上の行為の事例

(0501030)「避難場所・方法を理解する・人に聞く」

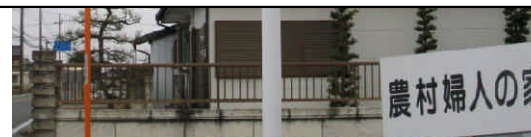
(0502010)「地震について理解する」

(0502020)「身を守る(地震発生時)」



教室活動の目標

・地震の時に行動できるようにする



対話

教材例集：(05)より

● イメージをつかむ：地震だ！

P. 56



地震のとき、どうしたら いいですか。いいと思うものに ○を、

よくないと 思うものに ×をつけましょう。

分からないときは、まわりの人にきいてみる。前の ページで 考えたことは しましょう。

取り上げる生活上の行為の事例

(0501030)「避難場所・方法を理解する・人に聞く」

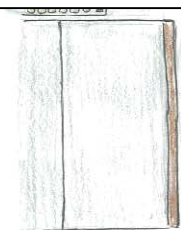
(0502010)「地震について理解する」

(0502020)「身を守る(地震発生時)」



教室活動のねらい

- ・避難場所や避難方法の注意書きを読んで理解できる
- ・身の守り方について説明を読んで理解できる
- ・地震に備えることができる



協働

対話

カードを作りましょう。いつも 持っていましょう。

取り上げる生活上の行為の事例

(0501030)「避難場所・方法を理解する・人に聞く」

(0502010)「地震について理解する」

(0502020)「身を守る(地震発生時)」

教室活動のねらい

- ・避難場所や避難方法の注意書きを読んで理解できる
- ・身の守り方について説明を読んで理解できる
- ・地震に備えることができる

協働

対話

教材例集：(05)より

■ 活動2－緊急の 時の カードを 作ろう

P. 59-60

カードを作りましょう。いつも 持っていましょう。

地震・災害時のための避難カード
 Earthquake/Disaster Evacuation Card
 地震時・災害時のための避難カード
 Libro de emergencia para casos de terremotos o desastres

〒205-0854 東京都中央区新富町1-1-1
 日本国際救済協会
 TEL 03-423-2100 FAX 03-423-2106
<http://www.jair.org.jp>

日本語で記入して、いつも身につけていましょう
 Please fill out in Japanese and keep it with you.
 漢字・かな・ひらがなで記入し、携帯してください
 Preencha em japonês e mantenha sempre consigo
 Rellene en japonés y llévela siempre consigo

氏名 Name 姓名
 姓 氏名 completo
 姓 氏名 completo

住所 Address 地址
 Endereço Dirección

国籍 Nationality 国籍
 Nacionalidade Nacionalidad

私の話せる言葉 Languages I can speak.
 我能說的語言
 Idiomas que domina
 Idiomas que domina

血型 Blood type 血型
 Tipo de sangue Grupo sanguíneo

国内の緊急連絡先 Emergency contact in Japan 国内緊急連絡先
 Número de telefone do Japão para contato em casos de emergência
 Número de teléfono del Japón para contacto en casos de emergencia

国外の緊急連絡先 Emergency contact abroad 国外緊急連絡先
 Número de telefone do seu país para contato em casos de emergência
 Número de teléfono de su país para contacto en casos de emergencia

大使館の電話番号 Embassy Phone Number 大使館電話番号
 Número de telefone do Consulado
 Número de teléfono del Consulado

近くの避難所 Nearest Evacuation Area 近所の避難場所
 Local de refúgio mais perto
 Lugar de refugio más cercano

書きましょう。

教材例集：(05)より

■ 活動3－地震に 備えよう

P. 61-62

(1)防災用品について 話しましょう

- ① どんな 防災用品を見たことが ありますか。
- ② あなたが 使いたいと 思った 防災用品は 何ですか。



取り上げる生活上の行為の事例

(0501030)「避難場所・方法を理解する・人に聞く」

(0502010)「地震について理解する」

(0502020)「身を守る(地震発生時)」

ますか。

日本語教室：

(2)防災袋につい

- ① まわりの人
あるか、聞い
中身も 聞
- ② あなたの家

教室活動のねらい

- ・避難場所や避難方法の注意書きを読んで理解できる
- ・身の守り方について説明を読んで理解できる
- ・地震に備えることができる



協働

対話

教材例集：(05)より

■ 活動3－地震に 備えよう

P. 61-62

(1)防災用品について 話しましょう

- ① どんな 防災用品を見たことが ありますか。
- ② あなたが 使いたいと 思った 防災用品は 何ですか。



(2)防災袋について 話しましょう

- ① まわりの人に 家に 防災袋（非常用持出袋）があるか、聞いて みましょう。 また、 防災袋の中身も 聞いてみましょう。
- ② あなたの家の 防災袋に 何を 入れておきますか。



(3) 消火器について 話しましょう

- ① あなたの 身の回りに 消火器がありますか。どこにありますか。



家：
会社：
日本語教室：
まちの中：

- ② 消火器の 使い方を 確認しましょう。

(1)防災館に行って 地震を 体験しましょう



(2)地域の 防災訓練に 参加しましょう



取り上げる生活上の行為の事例

- (0501030)「避難場所・方法を理解する・人に聞く」
- (0502010)「地震について理解する」
- (0502020)「身を守る(地震発生時)」

教室活動のねらい

- ・避難場所や避難方法の注意書きを読んで理解できる
- ・身の守り方について説明を読んで理解できる
- ・地震に備えることができる

キーフレーズ

- ・ 地震！
- ・ 急いで！

協働

対話

(1)防災館に行って 地震を 体験しましょう



(2)地域の 防災訓練に 参加しましょう



キーフレーズ

- | | | |
|--------|------------|--------|
| ・ 地震！ | ・ 助けて！ | ・ 逃げて！ |
| ・ 急いで！ | ・ 大丈夫？／大丈夫 | ・ 危ない！ |

- ・地震（じしん）
- ・震度（しんど）
- ・緊急地震速報（きんきゅうじしんそくほう）
- ・余震（よしん）
- ・避難（ひなん）
- ・避難場所（ひなんばしょ）
- ・避難所（ひなんじょ）
- ・津波（つなみ）

取り上げる生活上の行為の事例

(0501030)「避難場所・方法を理解する・人に聞く」

(0502010)「地震について理解する」

(0502020)「身を守る(地震発生時)」

(くすり)

(みず)

(らじお)

(でんち)

- ・地震だ！（じしんだ）
- ・助けて！（たすけて）
- ・逃げて！（にげてください）
- ・急いで！（いそいそ）
- ・危ない！（あぶない）
- ・大丈夫？／大丈夫！（だいじょうぶ／だいじょうぶ）
- ・危険（きけん）
- ・怪我（けが）
- ・病気（びょうき）
- ・ガスを止めて！（がすをとめて！）

教室活動のねらい

- ・避難場所や避難方法の注意書きを読んで理解できる
- ・身の守り方について説明を読んで理解できる
- ・地震に備えることができる

協働

対話

- ・地震（じしん）
- ・震度（しんど）
- ・緊急地震速報（きんきゅうじしんそくほう）
- ・余震（よしん）
- ・避難（ひなん）
- ・避難場所（ひなんばしょ）
- ・避難所（ひなんじょ）
- ・津波（つなみ）



薬
(くすり)



水
(みず)



ラジオ
(らじお)



電池
(でんち)

- ・地震だ！（じしんだ！）
- ・助けて！（たすけて！）
- ・逃げて！（にげて！）
- ・急いで！（いそいで！）
- ・危ない！（あぶない！）
- ・大丈夫？／大丈夫。
(だいじょうぶ？／だいじょうぶ。)
- ・危険（きけん）
- ・怪我（けが）
- ・病気（びょうき）
- ・ガスを止めて！（がすをとめて！）



マスク
(ますく)



懐中電灯
(かいちゅうでんとう)



タオル
(たおる)



乾パン
(かんぱん)

教室活動のねらい

- －避難場所や避難方法の注意書きを読んで理解できる。(活動1, 活動2)
- －身の守り方について説明を読んで理解できる。(活動1)
- －地震に備えることができる。(活動2, 活動3, 活動4)

活動前に確認しておくこと

- －学習者の居住地域や職場・学校の避難場所
- －近くの防災館の開館時間, 休館日, 交通
- －地域の防災訓練の日程 (外国人向け防災訓練や防災教室がある自治体もあります)

準備する素材

- －学習者の居住地域の自治体が発行している地震時の対応に関する多言語情報
- －学習者の居住地域の自治体が発行している避難場所に関するパンフレット
- －非常時用携帯カード(学習者の自治体のものがあればそれを利用, なければ他自治体のものを利用してよい。または, 自作する。)

教室活動の展開の説明

イラスト・写真・活動シートなどを使った活動の方法がていねいに書かれている

行動・体験中心の活動をデザインしてみよう！

① 地域・学習者に応じた教育内容の選択

- ・トピックの選択
- ・取り上げる生活上の行為

内容



教室活動の目標

② 実際に「できるようになる」ために、行動・体験中心の活動を設計

方法

- ③ 専門家・地域住民との協働の活動を取り入れる
- ④ 対話による相互理解が促されるように活動を工夫



学習方法について検討

② 実際に「できるようになる」ために、行動・体験中心の活動を設計

- ・実際に行動・体験する(疑似体験も)
- ・イメージする: DVD視聴・写真・絵など

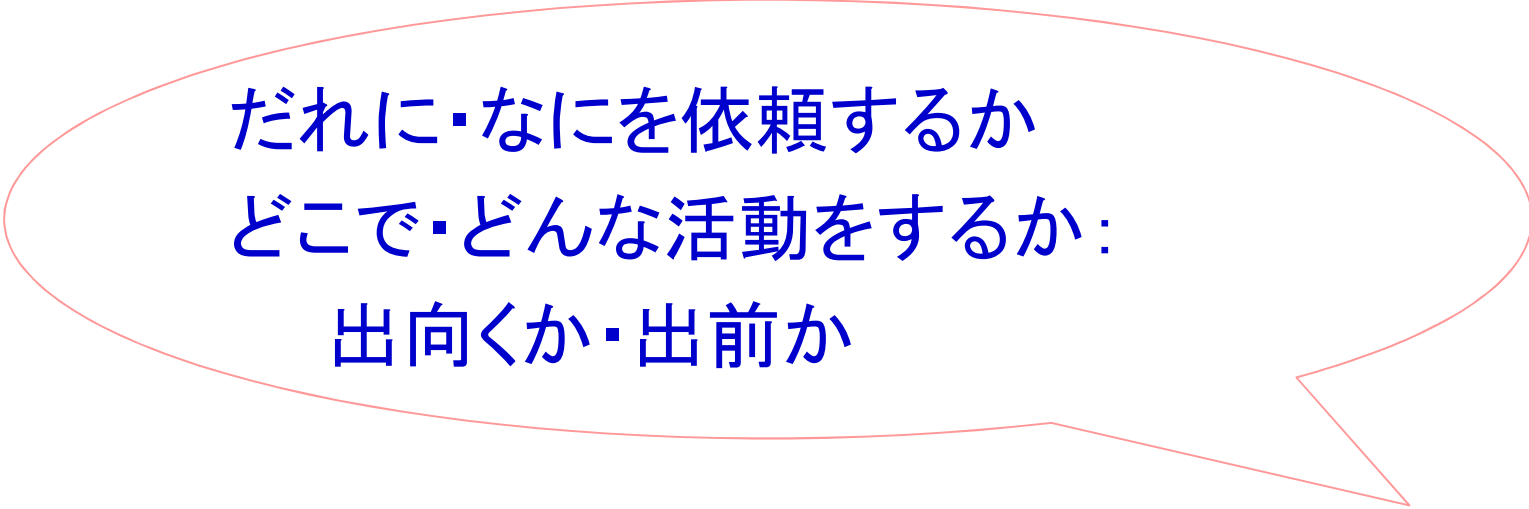


どのような情報が必要か
どう日本語を学習するか

教材

学習方法⇔協力者について検討

③ 専門家・地域住民との協働の活動を取り入れる



だれに・なにを依頼するか
どこで・どんな活動をするか：
出向くか・出前か

学習方法⇔対話による相互理解について検討

④ 対話による相互理解が促されるように活動の工夫をする

対等な立場での対話

...話す内容について情報の優劣がない

...個人としての状況や想いを伝える



日本語を学習

教材

活動をデザインしてみよう

想定した学習者について

- ・選択したトピック
- ・取り上げる生活上の
行為
- ・教室活動の目標

活動1

活動のねらい:

協力者

対話

教材

活動デザインを考える
にあたって、難し
いと感じたこと

防災をテーマにした活動事例紹介

- 昨年度文化庁事業 実践プログラムBより

防災をテーマにした活動:地震について知る



- ・阪神淡路大震災時の映像を見る
- ・経験から学ぶ

イメージを
つかむ

体験・行
動する

防災をテーマにした活動：災害に備えることができる(1)

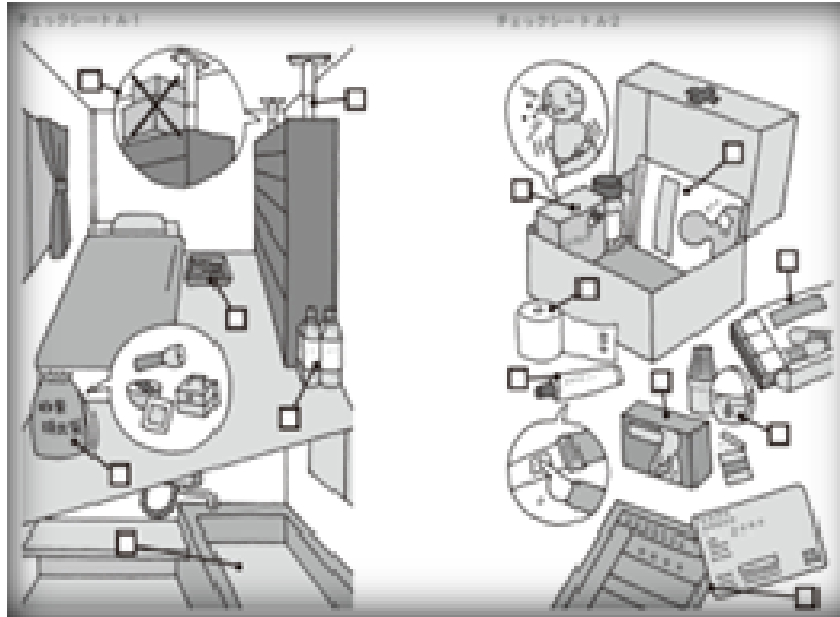
・防災の日
(9/1)の新聞
記事(写真や
図など)を見る

・避難袋を
見せる
↓
話し合う

イメージを
つかむ

体験・行
動する

ことばを
知る



・チェックシートにつ
いて説明し、チェック
する

→シートを見ながら
話し合う

・避難所を確認する

防災をテーマにした活動：地域行事への参加(1)



- ・小学校にて開催の防災フェスタに参加
- ・「防災虎の巻」配付

スライドが小さくて、よく見えないなあ・・・

日本語が難しくてよくわからない・・・

日本人が「やさしい日本語」の使い手にならないと！

防災をテーマにした活動:地域行事への参加(2)

「防災虎の巻」
を読む



防災マップづくり
防災クイズづくり



団地の
「ふれあいまつり」
で交流

ことばを
知る

体験・行
動する



発展的
な活動

防災をテーマにした活動：グラッときたとき対処できる

- ・3. 11のとき、どこで何をしていたか、話し合う

イメージを
つかむ

- ・グラッきたたら何をする・・・やることの順番を考えて絵カードを並べる

体験・行
動する



こっちのグループ
はどうだった？

防災をテーマにした活動：災害に備えることができる(2)

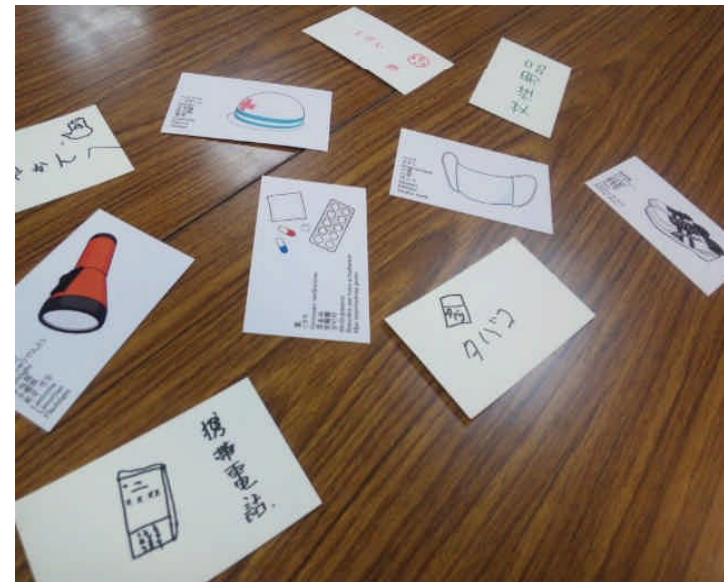
- 防災グッズカードを使って、持ち出すものの優先順位を考える

→カードにないもので必要なものを描く

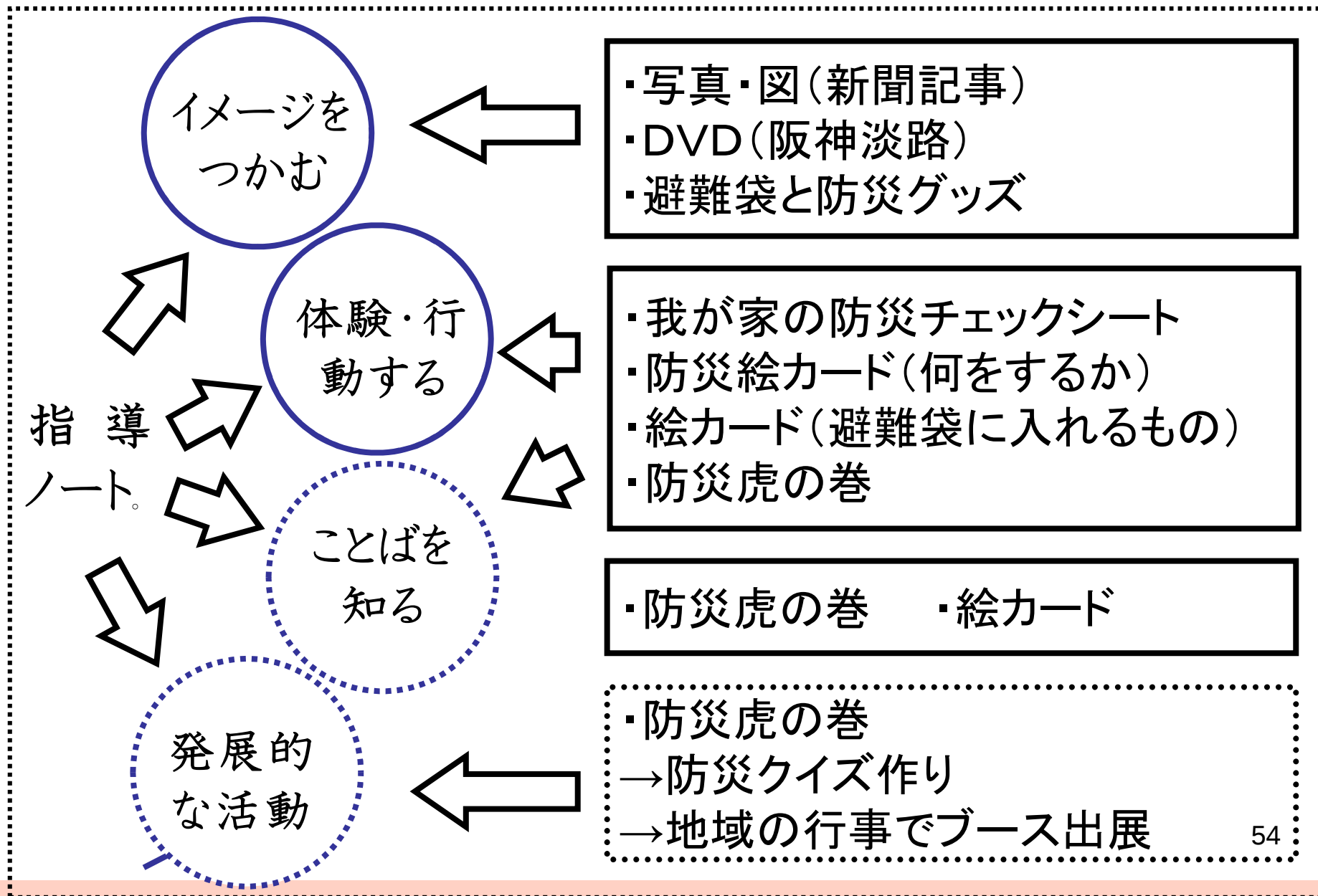
→グループ間で共有する



家にあるもの・これから買うものについて話し合う



教材例：防災をテーマとした活動で使用



4. 教材例集活用の留意点

- 教材例集をそのまま使えないの？
- 教材例集はなんのため？

「教材例集」活用の留意点

「『教材例集』中の教材例を使用する際には、適宜修正を加えて、地域の実情や学習者の日本語レベルに合わせて、教材例の内容に手を加えたり、多言語情報を活用したり、母語話者の協力を得る等、工夫を行うことが必要」(『教材例集』p.4, 『ガイドブック』p.4)

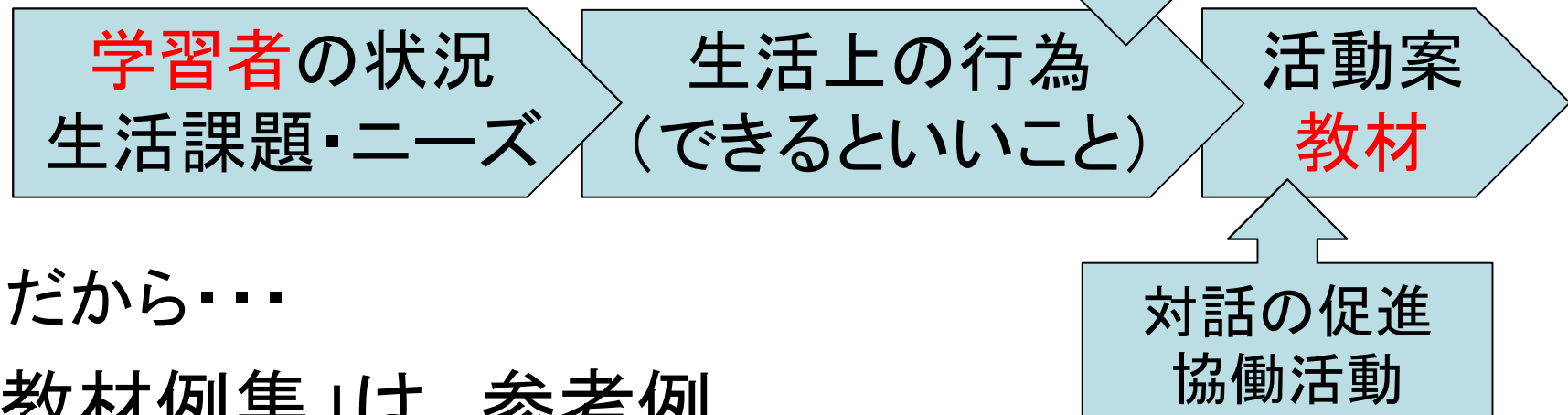
- 実際の教材は、地域の実情・学習者の状況に合わせて、それぞれの現場で作成すること
教材例集は、そのための参考例

「教材例集」活用の留意点

「教材例集」には、そのまま使えるものもあるかもしれないが、多くは、作り直す必要があるか、まったく使えないものもある。

つまり・・・

《教材》から「始める」のではなく
《学習者》から「始める」



だから・・・

「教材例集」は、参考例

さまざまな事例から学ぼう

- 11:00 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の
標準的なカリキュラム案を活用した取組の報告
- 13:00 平成24年度「生活者としての外国人」のための日本語
教育事業 事例発表 ポスターセッション
- 16:00 分科会の成果共有報告会

<参照ホームページ>

●文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/kyouiku/seikatsusya/index.html

●日本語教育コンテンツ共有システム NEWS

<http://www.nihongo-ews.jp/>

まとめにかえて

「カリキュラム案」における言語習得の考え方

- 学習者自身が生活の中で実際に必要性を感じ、「**できるようにになりたい**」と望む**生活上の行為**を適切に選ぶ → 積極的な言語学習につながる
- 実際に「できるようになる」ために、**行動・体験中心の活動**を設計
- 学習者の**主体性**の重視 → 生涯学習
- 学習の過程においても地域住民との**協働活動**をできるだけ取り入れる → 教室の活動が、日常生活における**対等な人間関係、ネットワークの構築**につながっていくように

まとめにかえて

「カリキュラム案」における言語・言語習得の考え方

➤ 「エンパワメント」の実現

新たに参入する「生活者としての外国人」にとって、日本語習得はそれ自体が最終目標ではありません。

獲得された意思疎通の手段により、人とつながること、言葉の壁によって発揮できなかった自分らしさや力を取り戻したり、発揮できたりするようになること、そして社会の一員として自立し、社会生活のあらゆる領域に参画すること、つまり「エンパワメント」を実現することによって初めて目標に到達したということが出来ます。そのことをしっかりと見据えて、地域における具体的なプログラムを構築することが必要です。

(文化庁『生活者としての外国人に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案 活用のためのガイドブック』p.3)

振り返り・質疑応答

行動・体験中心の活動について

- ①使えそう・やってみようと思ったこと
- ②疑問に思ったこと・もやもやしていること

おわり